

丹羽 大貫

教育と学位：

京都大学から学士号を 1997 年に、修士号を 1999 年に受けた。1975 年には、Henry S. Kaplan 教授の指導のもとで理学博士号を受けた。



職歴：

2015 年から 2023 年に放射線影響研究所の理事長を務めた。

彼の専門家としての職歴は、京都大学の医学部に放射線基礎医学教室の助手で始まった。1984 年には、広島大学原爆放射能医学研究所に助教授として雇用され、1991 年に教授に昇進した。1997 年には京都大学の放射線生物学研究センターの教授となり、2007 年に退官。ついで放射線医学総合研究所重粒子センターの副センター長となったが、2009 年に退職。2011 年に福島事故が起こってからは、福島に行き、2012 年には運よく福島医大の客員教授となり、定期的に地域の方々との対集会を開催し、主に地域での生活の安定や放射線の健康影響についての話し合いを 2015 年に放射線影響研究所に移るまで行った。

研究：

丹羽の研究は生命科学の多分野にわたるが、主として仕事をしたのは放射線生物学である。ただ、放射線誘発白血病ウイルスを発見したヘンリー・カプラン教授のもとで働いたため、彼は内在性レトロウイルスゲノムの放射線による発現誘発と未分化 ES 細胞での発現抑制の分子機構について研究を行った。放射線による非標的・間接的突然変異についても興味を持って研究を行った。そして 1971 年から 2007 年までの研究者としての生活の中で、131 の論文を発表している。